



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 195 号 ■

3・11の悲劇を繰り返さないために

本部 課長補佐 工藤 由希子

3月9日(日)青森市文化会館で2025さようなら原発・核燃3・11青森集会が開催され、特別講演では、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏より「六ヶ所再処理工場の被爆と福島原発放射能汚染水」についてのお話をいただきました。

福島第一原発の敷地のタンクにある130万トンの水には、トリチウムが排出基準濃度の10倍含まれています。これは、れつととした汚染水ですが、日本ではマスコミが率先して「処理水」と呼び、同意を得られなければ海に流さないという漁民との約束も国は破りました。嘘をついて、放射能を含んだ汚染水を海に流すのではなく、タンクの増設やモルタル固化、地下への圧入など、流さない現実的かつ容易な方策に転換するべきです。

青森県六ヶ所村には再処理工場があり、稼働すればトリチウムの放出は膨大です。事故が起きなくても平常運転として膨大な放射能を環境に放出してしまうのです。計画から四半世紀以上経っても稼働延期を繰り返し運転できない工場など、もともと作ってはいけなないと気が

付くべきです。特別講演のあとは、各地からの報告と政党挨拶、そしてデモ行進が行われ最後に県庁を包囲して、知事に私たちの思いを訴えました。

私たちは、決して3・11を忘れてはいけません。原子力施設の廃止に向けこれからも活動していきます。



青森市内を行進しました



講演する小出裕章氏



参加者で記念撮影



手作りのグッズを背負って行進中

青森県を『核のゴミ捨て場』にさせない

ファルマ弘前薬局 主任補佐 神 千穂美

3月1日(土)弘前文化センターで「さようなら原発・核燃3・11」弘前集会が開催され、ファルマから7名が参加しました。

青森県議会議員の吉俣洋氏による基調講演「青森県を『核のゴミ捨て場』にさせないため、原発・核燃から撤廃を」を聴きました。夢のサイクルと言

われた核燃料サイクルは使用済み核燃料を再処理する技術が完成していないためそもそも破綻していることや、青森県に今ある核のゴミの最終処分地が決まってい



講師の吉俣洋氏



ファルマの活動を報告しました

われは「無害化するまでに10万年もかかるゴミを『電気を得る』という一瞬の利益のために生み出し続けるのは人類の罪ではないか」という言

葉が印象に残りました。後半は参加団体のリレートークがあり、ファルマからはこれまで3・11集会に

参加してきた軌跡を報告しました。手作りのアピールグッズ紹介は会場の反応も良く、活動の意義を再確認することができました。

PFASは「永遠の化学物質」

技術部長・藤代薬局薬局長 木村 匡宏



3月1日(土) 全日本民医連「第2回PFAS問題交流会」にZOOM参加しました。講座の中で「PFASは永遠の化学物質」として語られ、自然界ではほとんど分解されずヒトの体内においても蓄積しやすく、長期間にわたり残留することが報告されました。PFASは発がん性、ホ

ルモン

体的な規制の枠組みはまだ整っていないのが現状です。全国の民医連の医療機関では、PFASの摂取量暴露モニタリングと健康フォローアップのための血液検査が進んでいます。PFAS汚染は人権に関わる問題で今後、汚染源の特定や除染、汚染源となつている企業の社会的責任の追及、命を優先する政治への転換を進める必要があることが強調されていきました。今後注視していかねばならない問題だとあらためて感じました。

発達障害を正しく理解する

本部 課長補佐 水木 孝之

3月7日(金) ファルマ弘前薬局会議室でファルマ利用者委員会主催の患者様のお話を聞く会「子どもの発達障害について」の講演がありました。小児科医であり、6児の母でもある加村先生の講演では、発達障害は生まれつきの特性であり、親の育て方や本人の努力不足によるものではないとお話されました。

社会には発達障害への理解がまだ不足しており、インクルージョン(包括性)の理念に基づき、多様性を尊重し、誰もが排除されない社会を目指す必要があると説明がありました。そのためには、個々のニーズに合わせた合理的配慮(環境調整)が不可欠であり、差別をなくすためには、マジョリティ(多数派)が特権を自覚し、行動を変

える必要性を強調されました。子どもたちが自分らしく生きていくためには、私たち大人が発達障害について正しく理解し、温かい支援を提供することが重要だと語られました。



講師の加村医師に質問中

14才のわたし

居宅介護支援事業所ファルマ 主任 伊勢 充

14歳の私は、出身地である佐井村で走り回っていました。当時は陸上競技部に所属していて、写真の私は中体連で旗手として行進しているものです。手の上がり具合からして真面目さが伝わりますね(笑) その真面目さが売りで部長をしていました。本命の競技そのものは短距離(主に100m、200m)を中心に毎日練習に打ち込んでいた記憶があります。私には少し歳の離れた二人の兄がいます。どちらも陸上部で小さい私にとっては、「兄よりも早く走れるようになりたい」その一心で練習していました。

短距離はなかなかどかしいものがあり、練習量と記録が必ずしも比例しません。もちろん練習しないよりはしたほうが良いのですが、長距離のようにやればやるほど記録が伸びるようにはいかず、100mでは0.01秒単位で自己記録が出るか出ないかの分かれ目となります。スタートの一瞬の迷いや風向が勝負を左右し、一喜一憂した記憶があります。

地道な練習が、ふとした時に結果として表れ、誰も見ていなくても努力を続けることの大切さを、私は陸上競技から学んだと思っています。

今となっては、たまに子どもと一緒に走ると、昔のイメージで思うよりもあまりにも足が遅くなったなあとお感しています。全力疾走はリアルに怪我をしそうなので、ゆっくりジョグ(ゆっくり走る)からたまには再開したいですね。



旗手をしている14才の伊勢主任(左から2人目)

写真紹介

2/17 五所川原市ききょう野会へ出前講座

2月17日(月)、五所川原市ききょう野会主催の出前講座が「中高年の賢い薬の飲み方、かかりつけ薬剤師」をテーマに開催され、ファルマツ谷薬局の福井薬剤師が講演しました。参加者は13名で、「温・冷シップの違いは?」「1年前の咳止めは飲んで大丈夫?」などの質問がありました。



参加者から好評でした

2/18 河西支部へ出前講座

2月18日(火)、津軽保健河西支部主催の出前講座が「お薬の正しい飲み方とサプリメントとの付き合い方」をテーマに境関温泉で開催され、木村技術部長が講演しました。参加者は28名で、多剤服用についての相談や「薬局を門前から他へ変えてもいいのか?」などの質問がありました。



多くの方が参加してくれました

2/21 五所川原サークルひだまりへ出前講座

2月21日(金)、五所川原サークルひだまり主催の出前講座が「賢い薬の飲み方、飲み合わせ・かかりつけ薬局、薬剤師」をテーマに開催され、ファルマツ谷薬局の安田薬剤師が講演しました。参加者は15名で、薬の飲み合わせについてとても関心が高かったようです。



参加者からの質問に答える安田薬剤師(左)

2/25、26 県連医学対大運動

2月25日(火)~26日(水)の2日間、青森県民連医学対大運動が取り組み、25日は工藤取締役事務部長、26日は水木課長補佐が参加し、多くの受験生へ県連の医学対活動をアピールすることができました。



各法人から参加しました(左から4人目工藤取締役事務部長)

大学就職セミナー

3月1日(土)、岩手医科大学主催の就職セミナーに同大学出身のファルマ弘前薬局の小田桐薬剤師と本部の水木課長補佐が参加し、ファルマの魅力伝えるために準備しました。全体的に薬学生の参加が少なかったとのことでした。

また、3月4日(火)、東北医科薬科大学主催の就職セミナーにファルマ弘前薬局の外崎薬剤師と本部の工藤課長補佐が参加し、ファルマの魅力や薬剤師の業務内容についてアピールしました。薬学生1名が就職先としてファルマに関心をもってくれつながりができました。



参加した学生に丁寧に説明する外崎薬剤師

新入職員紹介



黒石薬局 なかやま ひろこ 中山 広子

2月17日から黒石薬局で働いております、中山広子と申します。家から近いこともあり、黒石薬局を志望しました。調剤薬局のお仕事は未経験で、わからないことも多く不安と心配の毎日ですが、早く仕事を覚えたいという気持ちでいます。運動は苦手ですが、ヨガとお菓子作りは緩く続けています。皆様どうぞよろしくお願いたします。

Pharmaizm 新年号が日本機関紙協会「2025全国新年号機関紙誌コンクール」にて、「特別賞・デザイン部門」を受賞しました。ご協力ありがとうございました。



おかげさまで特別賞をいただきました